

空気圧シリンダに関する使用上の注意事項

設計に関する注意事項



警告

- 空気圧シリンダは、機械摺動部のこじれなどがあると予想以上の速度で飛び出すことがあります。スムーズに機械が作動し、人体や機械に損傷を与えないような設計を行ってください。
- シリンダや被駆動物体が人体に危険を及ぼす恐れのある場合は、保護カバーを付けてください。
- 作動頻度が高い場合や振動の多いところに取付ける場合は、シリンダの固定部や連結部がゆるまない確実な締結方法を行ってください。
- 停電や動力源の故障の可能性を考慮した安全対策を施してください。
- 非常停止やシステムの異常時にシリンダの動きで人体および機器・装置の損傷が起こらないような設計をしてください。

選定に関する注意事項



警告

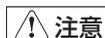
- 本カタログに記載の製品は、工業用圧縮空気システムにおいてのみ使用されるように設計されています。



注意

- 空気圧シリンダは、空気の圧縮性のため油圧のような正確な中間停止精度を得ることはできません。
- 空気圧シリンダや空気圧バルブは漏れゼロを保証していません。シリンダやバルブからの漏れが問題となるような環境や用途でのご使用は避けてください。

空気圧源に関する注意事項



注意

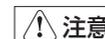
- 清浄な圧縮空気を使用してください。化学薬品や腐食性のガスを含む場合は、破損や作動不良の原因となります。
- 圧縮空気内の異物を除去するためエアフィルタを取付けてください。
- 圧縮空気内のドレンを除去するためアフタクーラ・エアドライヤ・エアフィルタなどを設置してください。

使用環境に関する注意事項



警告

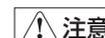
- 腐食性のある雰囲気では使用しないでください。シリンダの材質についてはカタログを参照してください。



注意

- 粉塵の多い場所や水滴・油滴のかかる場所では、ピストンロッドにカバーをしてください。

取付に関する注意事項



注意

- ロッドの軸心と移動方向は必ず一致させて連結してください。一致していない場合は、プッシュロッド表面やチューブ内面およびバックンを摩耗や破損させる原因となります。
- シリンダチューブやピストンロッド等に物をぶつかけたりして傷を付けないようにしてください。摺動部分の傷はバックンの摩耗の原因となります。
- トラニオン金具やクレビス金具等の回転部分にはグリスを塗布して焼き付きを防いでください。
- 回転レス形シリンダのピストンロッドには、既定値以上の回転力を与えないでください。ピストンロッド先端のねじを使用する場合は、必ずピストンロッドを固定して行ってください。
- ジャバラが付いている場合は、ジャバラにねじりを与えないように取付けてください。

配管に関する注意事項



注意

- 配管前に管を清浄にしてください。
- シールテープやシール材が管内に入らないよう注意してください。
- 配管ねじの切粉やごみが管内に入らないよう注意してください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。これらの事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、「危険」「警告」「注意」の三つに区分されています。いずれも安全に関する重要な内容ですから、ISO4414※1)、JIS B 8370※2)およびその他の安全規則に加えて、必ず守ってください。

危険： 切迫した危険の状態、回避しないと死亡もしくは重傷を負う可能性が想定されるもの。

警告： 取扱いを誤ったときに、人が死亡もしくは重傷を負う可能性が想定されるもの。

注意： 取扱いを誤ったときに、人が傷害を負う危険性が想定される時、および物的損害のみの発生が想定されるもの。

※1) ISO 4414 : Pneumatic fluid power—General rules and safety requirements for systems and their components (MOD)

※2) JIS B 8370 : 空気圧システム及びその機器の一般規則及び安全要求事項

製品の保証期間は製品納入後1年とします。

当社は保証期間中に当社の責任において発生した製品故障について、無償で当該製品の修理又は代品の納入をおこないます。

当該製品が組み込まれた装置類よりの取外し及び取付けに関する工事費などの付帯的費用その他ラインストップによる機会損失については当社の負担範囲外とさせていただきます。



警告

●空気圧機器の適合性の決定は、空気圧システムの設計者または仕様を決定する人が判断してください。

●十分な知識と経験を持った人が取り扱ってください。

圧縮空気は取扱を誤ると危険です。空気圧機器を使用した機械・装置の組立や操作、メンテナンスなどは、十分な知識と経験を持った人が行ってください。

●安全を確認するまでは、機械・装置の取扱い、機器の取外しを絶対に行わないでください。

1) 機械・装置の点検や整備は、被駆動物体の落下防止や暴走防止などがなされていることを確認してから行ってください。

2) 機器を取外す時は、上述の安全装置が取られていることを確認し、システム内の圧縮空気を排気してから行ってください。

3) 機械・装置の再起動を行う場合は飛び出し防止の処置を確認してから行ってください。

●仕様に適合した環境でご使用ください。

原子力・鉄道・航空・車輜・医療機器・飲料や食料に触れる機器・娯楽機器・緊急遮断装置・プレス安全装置・ブレーキ回路・安全機器など人や財産に大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途や屋外で使用される場合は当社にご連絡くださるようお願い致します。

安全にご使用いただくために

使用環境に関する注意事項



- 爆発性ガスの雰囲気では絶対に使用しないでください。スイッチは防爆構造になっていません。爆発性ガスの雰囲気で使用した場合は、爆発災害を引き起こす可能性もありますので、絶対に使用しないでください。



- 磁界が発生している場所では使用しないでください。スイッチの誤動作や、シリンダ内部の磁石の減磁の原因となります。
- スイッチに常時水のかかるような環境下では使用しないでください。IEC規格IP67に適合していますが、常時水がかかる場合は、絶縁不良が発生する場合があります。
- 切削油等の油分や薬品のかかるような環境下では使用しないでください。
- 過大な衝撃のかかる環境では使用しないでください。有接点スイッチの場合、接点が誤動作し瞬間的に信号がでる場合があります。
- ノイズ発生源のあるところでは使用しないでください。無接点スイッチの近くに大きなノイズを発生する装置機器（電磁式リフト・高周波誘導炉・モータ等）がある場合、スイッチ内部回路素子の劣化や破損を招く恐れがありますので、発生源のノイズ対策を考慮いただくとともにラインの混触にご注意ください。
- 磁性体の堆積や近接を避けてください。スイッチ周辺に切粉や溶接スパッタが多量に付着すると、シリンダの磁力が奪われスイッチが誤動作することがあります。
- 使用温度範囲内でも、急速な温度変化がかかる場合は、スイッチ内部の部品に悪影響を与えることがあります。

保守点検に関する注意事項



- 必要に応じてスイッチ取付ねじの増し締めを行ってください。このとき取付位置を確認し、再調整してください。
- リード線の損傷を確認してください。リード線の被覆に損傷があると絶縁不良や断線の可能性があります。速やかにスイッチあるいはリード線の交換を行ってください。

取付・調整に関する注意事項



- 落したり打ち当てたりしないでください。ケースが破損しなくても内部が破損して誤動作する場合があります。
- スイッチのリード線を持ってシリンダを運ばないでください。リード線の断線や内部への損傷を与える可能性があります。
- スイッチの固定は締め付けトルクを守ってください。過大なトルクはスイッチの破損を招く可能性があります。
- スイッチは動作範囲の中央に設定してください。動作範囲の端部で使用した場合、検出が不安定になる場合があります。
- シリンダを隣接し、スイッチを接近して使用される場合は、隣接のシリンダのマグネットを感知して誤動作する場合があります。

配線に関する注意事項



- 必ず負荷を接続してから電源を投入してください。負荷を接続せずにスイッチを動作させると過電流が流れ、スイッチが瞬時に破損します。
- 配線の絶縁性を確認してください。短絡があると過電流によりスイッチが破損する場合があります。
- 動力源や高圧線と同一配線の使用は避けてください。ノイズにより誤動作する可能性があります。



- リード線に繰り返しの曲げや引張り力が加わらないようにしてください。断線の原因になります。
- 誤配線に注意してください。2線式の場合、極性のあるものがあります。

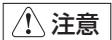
安全にご使用いただくために

給油に関する注意事項



- シリンダに給油する場合は、タービン油1種（無添加）ISO VG32を使用してください。マシン油やスピンドル油は使用しないでください。
- 給油で使用した場合は、途中で給油を停止しないでください。内部に封入されたグリスが給油された油により洗い流されている場合があります、シリンダの作動不良を招くことがあります。

調整に関する注意事項



- 装置の立上げは供給圧力を低圧から徐々に上げて、装置が滑らかに作動することを確認してください。
- シリンダには必ずスピードコントローラを取付け、低速側から徐々に設定速度へ調整してください。

- 空気圧クッション付のシリンダは出荷時に中間に調整されていますが、使用状況に応じてクッションニードルを低速側から徐々に調整してください。空気圧クッションの能力以上のエネルギーがかかるとカバーとピストンの衝突が発生し、機器や装置に損傷を与えることがあります。

保守点検に関する注意事項



- 機器の取外しや分解を行う場合は、落下の防止や暴走処置などを行い、システム内の圧縮空気を排気して、安全を確認してから行ってください。



- 空気圧システムのドレン抜きは定期的に行ってください。
- 定期的に空気圧機器の点検を行い、異常が見られる場合は、対策が行われるまで使用しないでください。

スイッチに関する使用上の注意事項

設計・選定に関する注意事項



- 使用範囲以内で使用してください。仕様を越えた負荷電流・電圧・温度・衝撃等での使用は、破壊や作動不良の原因となります。
- リレー・ソレノイド等の誘導負荷を接続する場合は、サージ電圧が発生します。接点保護回路を設けてください。
- スイッチ配線が長くなると突入電流でスイッチの接点を破損する場合があります。接点保護回路を設けてください。
- 表示灯付スイッチを直列接続すると、表示灯の内部抵抗により電圧降下を起こします。スイッチが作動しても負荷が作動しない場合があります。

- 2線式無接点スイッチは、オフ時でも内部回路を動作させるため電流（漏れ電流）が、負荷に流れます。特に並列接続の場合は、負荷の動作電流を確認してください。
- スイッチはシリンダに内蔵されたマグネットで作動します。接近させすぎると双方の磁力が干渉して誤動作する場合があります。また、強磁場環境ではスイッチが誤動作することがあります。使用しないでください。
- 高い信頼性が必要なインターロック回路に使用する場合は、故障に備えて機械式の保護機能を設けるか、シリンダスイッチ以外のセンサを設けるなどの2重インターロック方式にしてください。



- ストローク途中での検知は、負荷の応答性に注意してください。ピストン速度が速い場合、負荷が追従できない可能性があります。
- 保守点検スペースを考慮した設計にしてください。